

工業高等学校における職業指導・キャリア教育の現状と課題

Current Situations and Issues of Vocational Guidance and Career Education in Technical High Schools

金澤 昭良* 田中 耕一**

Akira Kanazawa Koichi Tanaka

概要

2016年に公示された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」では、物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく力や、問題を見いだし解決に向けて思考するために必要な知識やスキル等を子供たちに育成することを求めている。それらの資質・能力を子供たちに育むためには、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、キャリア発達を促すキャリア教育の視点も重要である。本稿では、工業高等学校における職業指導とキャリア教育との関連や学校教育におけるキャリア教育の在り方、特別活動等における具体的な実践内容について検討するとともに、効果的なキャリア教育や進路指導の在り方について提言している。

1. はじめに

2016年に公示された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」では、急速に情報化が進展する社会の中で、物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく力や、問題を見いだし解決に向けて思考するために必要な知識やスキル等を児童・生徒に育成することを求めている⁽¹⁾。

子供たちに将来、社会や職業で必要となる資質・能力を育むためには、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、キャリア発達を促すキャリア教育の視点も重要である。

こうしたことを踏まえ、2018年に告示された高等学校学習指導要領では、教科「工業」において、安全・安心な社会の構築、職業人としての倫理観、環境保全やエネルギーの有効な活用、産業のグローバル競争の激化、情報技術の技術革新の開発が加速すること等を踏まえ、ものづくりを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、学習内容の改善・充実が図られた⁽²⁾。

本稿では、工業高等学校における職業指導とキャリア教育との関連や学校教育におけるキャリア教育の在り方、特別活動等における具体的な実践内容について検討するとともに、効果的なキャリア教育や進路指導の在り方について提言している。

2. 職業指導とキャリア教育のこれからの在り方

職業指導の定義については、1955年に公示された「中学校・高等学校職業指導の手引—管理・運営編」では、「学校における職業指導は、個人資料、職業・学校情報、啓発的経験および相談を通じて、生徒みずから将来の進路の選択、計画をし、就職または進学して、さらにその後の生活によりよく適応し、進歩する能力を伸長するように、教師が教育の一環として、組織的継続的に援助する過程」と記された⁽³⁾。

一方、キャリア教育については、1999年に公示された「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）」では、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」と記されている⁽³⁾。キャリア教育についての理念が浸透してきている一方で、例えば、職場体験活動のみをもってキャリア教育を行ったものとしたり、社会への接続を考慮せず、次の学校段階への進学のみを見据えた指導を行ったり、職業を通じて未来の社会を創り上げていくという視点に乏しい、といった課題も指摘されている。また、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されているのではないかと、といった指摘もある⁽⁴⁾。

こうした課題を乗り越えて、職業指導やキャリア教育を効果的に展開していくためには、教育課程全

*北海道科学大学全学共通教育部数理情報教育グループ

**北海道札幌工業高等学校

体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要になる。高等学校においては、小・中学校におけるキャリア教育の成果を受け継ぎながら、特別活動のホームルーム活動を中核とし、学校行事、各教科・科目等における学習、個別指導としての進路相談等の機会を生かしつつ、学校の教育活動全体を通じて行うことが求められる⁽¹⁾。

キャリア教育は、子供たちに社会や職業との関連を意識させる学習であることから、その実施に当たっては、地域との連携が不可欠である。各学校が育成を目指す資質・能力を共有しながら、地域全体で子供の社会的・職業的自立に向けた基盤を作っていくことができるよう、地域との連携・協働を進めていく必要がある⁽¹⁾。

なお、進路指導については、そのねらいはキャリア教育の目指すところとほぼ同じであるものの、実際に学校で行われている進路指導においては、進路指導担当の教員と各教科担当の教員との連携が不十分であったり、一人一人の発達を組織的・体系的に支援しようとする意識や、教育課程における各活動の関連性や体系性等が希薄であったりすること等により、子供たちの意識の変容や資質・能力の育成に結び付いていないとの指摘もある。各学校においては、これまでの進路指導の実践をキャリア教育の視点からとらえ直し、その在り方を見直していくことが求められる⁽¹⁾。

3. 学校概要

3.1 学校の沿革・概要

北海道札幌工業高等学校定時制過程（以下「本校」という）は、1941年に札幌市立工業学校と称した夜間課程として、北海道庁立札幌工業学校に併置され、機械科・電気科・土木建築科の3科で発足した。1949年には、北海道立札幌工業高等学校定時制課程として、機械科・電気科・建築科・工業化学科の4学科で再スタートすることになった。

開学以来、本校は経済的な理由等から夜間に勉学に励む場であり、教育内容も全日制と肩を並べる授業展開を行い、校訓「重厚堅実」のもとに、将来を担う技術者育成が行われ、約7千名もの卒業生が札幌市をはじめ、全国で活躍している。

3.2 本校で生徒に育成する資質・能力

本校では、「スクールミッション（高等学校の存在意義や社会的役割等）」と「グラデュエーション・ポ

リシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）」を下記のように定めている。生徒に育む具体的な資質・能力は、①～⑤の5つにまとめられている。

【スクールミッション（高等学校の存在意義や社会的役割等）】
<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりの心で他者と協働し、たくましく生き抜くことができる生徒の育成 ・キャリア教育を通し、自己のキャリア形成により、自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択する生徒の育成 ・健康的な生活習慣を身に付け、自ら考え主体的に判断し行動できる生徒の育成
【グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）】
<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎学力をベースにもものづくりに取り組むことができる工業技術力を身につける。 ② 挨拶・礼儀を重んじ、自らの行動や生活を律する力を身につける。 ③ 基本的な生活習慣と自己の健康を管理する力を身に付ける。 ④ 他者の気持ちを思いやり、協働しながら新たな価値を創造する力を身につける。 ⑤ 常に感謝の心を持ち、誠実に働き社会に貢献する力を身につける。

4. 本校の職業指導やキャリア教育の取組事例

本校では、職業教育やキャリア教育の取り組みを、生徒に育む資質・能力と結び付けて実践している。なお、以下に示した4つの取り組みの説明の終わりには、「3.2 本校で生徒に育成する資質・能力」で示した①～⑤の中のどの資質・能力の育成を目指すかを示している。

4.1 サイエンスフェスタ 2023（機械科・電気科）

この取り組みは、北海道大学と北海道が主催する事業であり、「持続可能な開発目標(SDGs)」に貢献する研究を進める北海道大学研究者と、「未来社会の開拓者」である小・中学生や高校生、大学院生によるイベントである。

本校生徒は、2023年12月に札幌駅前通地下歩行空間を会場に、小・中学生を対象としたものづくりコーナーを担当した。本校生徒が、主催者と計画段階から連携・協力しながら、企画・運営をすること

により、生徒主体の能動的学習を促進したり、生徒のコミュニケーション能力を育成したりすることをねらいに実施した。

本校生徒のコーナーでは、SDGs の目標の一つである「産業と技術革新の基盤をつくろう」をテーマに、ものづくり体験を通して、資源をよりむだなく使えるようにした環境にやさしい技術や生産方法についての情報を、40 名以上の小・中学生に対して発信する貴重な機会となった。

【育成する資質・能力：①③④】

4.2 工場見学（機械科）

この取り組みは、2023 年 10 月に行った JFE 条鋼株式会社豊平製造所の工場施設等の見学であり、生徒にとって、迫力ある鉄の製造過程を肌で体感することができる貴重な機会である。製鋼・圧延一貫の操業技術と多数の検査機器を駆使した全数検査の様子を直接見学できることから、生徒は高生産性・高品質についての理解をさらに深めることができる。

また、熱延工程で働く技能者から製鉄業の魅力やキャリアについての話を聞くことにより、生徒の職業観・勤労観の育成も目指している。さらに、品質マネジメントシステムの国際規格に適合した品質保証の取り組みを理解し、不適合品流出の防止には、どのような取り組みが必要かを考える貴重な機会になった。体験した生徒の中には、就労・アルバイトをしている者が在籍しているが、この取り組みを経験することにより、生徒の中には、働くことの意義を再確認し、学校内外の生活態度に改善が見られる者もいた。

【育成する資質・能力：①⑤】

4.3 企業懇話会（電気科）

2023 年 7・11 月に、本校 1～4 年生の電気科生徒を対象に、石狩管内の企業を中心とした 12 社の企業が参加した企業懇話会を実施した。この取り組みは、企業の業務内容や社会人に求められる資質・能力の具体について理解する好機となっている。また、就労している卒業生から仕事の様子や第一種電気工事士等の資格取得の必要性について説明を受けることにより、生徒にとって、日常の学習に対する学習意欲を向上させたり、勤労観・職業観を育成したりする上でも貴重な機会となっている。さらに、高等学校での学習が仕事をする上で具体的にどのように生かされるのか等、高等学校で学ぶことの意味を理解

させることにより、生徒のキャリア発達に良い影響を与えることが期待されている。

一方で、教員にとっては、産業界の動きや職場環境、地域の現状についての認識を深める貴重な機会となっている。この取り組みを運営・指導した教員には、生徒への適切な助言や生きた情報の提供等が行われるようになり、コーディネート能力、カリキュラム開発能力等がさらに向上する等意識改革につながることが期待されている。

【育成する資質・能力：①②】

4.4 大学連携キャリア教育懇話会

2023 年 12 月に、生徒の職業選択の幅を広げることがを目的に、3 学年の希望生徒を対象に、本校を会場にキャリア教育懇話会を開催した。講師は、北海道科学大学の金澤昭良教授である。本懇話会は、「学校の教員になるためには、教員免許状を取得する必要がある、大学の教職課程ではどのような学習を行うか」をテーマに、金澤教授から、北海道科学大学における教職課程の学びの具体について紹介・説明を行った。

実施後にアンケート調査を実施したところ、受講前には教員免許取得や教員採用検査受検をまったく考えていなかった生徒が、受講後には、大学へ進学する目標の一つとして教員免許取得をあげるようになる等、自身のキャリアを具体的に考えるよい機会となった。

【育成する資質・能力：②⑤】

5. 本校卒業生の進路状況と課題

現在高等学校には、小・中学校時代に不登校を経験した生徒、特別支援学級に在籍した生徒、長期欠席等が原因で高等学校を中途退学した生徒等、様々な学習歴をもった生徒が在籍している。

また、発達障害がある等、特別な配慮が必要な生徒のためには、学び直しも含め高等学校在籍期間を通して生徒の能力や可能性を最大限に伸ばし、自立や社会参加に必要な力を培うため、一人一人の教育的ニーズに応じ、多様な学びの場において適切な指導を行う特別支援教育の充実が求められている⁽⁵⁾。

一方で、キャリア教育を進めるに当たっては、生徒のキャリア発達における家庭や保護者の役割やその影響の大きさを考慮し、家庭・保護者との共通理解を図りながら進めることが重要である。その際、保護者が子どもの進路や職業に関する情報を必ずし

も十分に得られていない状況等を踏まえ、産業構造や進路をめぐる環境の変化等についての具体的かつ現実的な情報を保護者に提供し、学校と保護者が連携して子どもに働きかけること等の必要性について共通理解を図ることが必要である。本校においても、種々の教育活動を進めるにあたり、前述の留意点を踏まえて計画・実施を行うことが求められているのである。

また、本校では、前述の「グラデュエーション・ポリシー」の他に、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの資質・能力ごとに生徒のキャリア発達状況を把握し、それを踏まえ、継続的に見通しをもってキャリア教育を行うことにより、生徒にそれらの資質・能力を育成させるよう努めている。「4. 本校の職業指導やキャリア教育の取組事例」で示したキャリア教育活動をはじめ種々の教育活動を通して、この4つの資質・能力を育成するよう努めているのである。これらの教育活動による成果として、本校の過去4年間の進路状況を表に示す。

表 本校生徒の進路状況

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
就職	14	16	19	18
進学	1	4	2	9
その他	6	2	2	3

さて、生徒が活動を記録し蓄積する教材として、2020年4月から、国内の全ての小学校、中学校、高等学校に「キャリア・パスポート」が導入された。

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである⁽⁶⁾。各学期や学年末の振り返りシートや、観察・体験等の記録や作文等を、学期・学年末のシート作成の際の参照資料と

して活用することが期待されている。

しかし、本校においては、義務教育段階の小・中学校と本校との接続を図った教育活動を推進するためには、小・中学校での取組を踏まえ、それらの成果を生かした教育活動を計画・実施する際の、「キャリア・パスポート」のさらなる活用が課題となっている。

6. おわりに

2023年に公示された教育振興基本計画では、将来の予測が困難なこれからの時代において、子供たちには、「主体性」、「リーダーシップ」、「創造力」、「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」、「表現力」、「チームワーク」等の資質・能力を備え、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決等を通じて、持続可能な社会を維持・発展させていくことを求めている⁽⁷⁾。

学校が、教育課程を通してこれからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、「社会に開かれた教育課程」の実現が重要となる。そのためには、学校を地域や社会に対して開いていくことが重要である。具体的には、小・中等高等学校等においてコミュニティ・スクールや地域学校協働活動、探究活動、キャリア教育・職業教育等を通じ、地域や産業界等の声を聞くとともに、教育実践への協力を得ることが必要である⁽⁷⁾。

一方で、キャリア教育は、生徒に将来の生活や社会、職業等との関連を意識させ、キャリア発達を促すものであることから、その実施に当たっては、就業体験活動や社会人講話等の機会の確保が不可欠である。「社会に開かれた教育課程」の理念の下、幅広い地域住民等（キャリア教育や学校との連携をコーディネートする専門人材、PTA・青少年団体、企業・NPO等）と目標やビジョンを共有し、連携・協働して生徒を育てていくことが求められる⁽⁸⁾。

特に、高校生の時期は、生徒自身の興味・関心に応じて、教育課程外や地域の教育活動等、生徒による自主的・自発的な活動が多様化していく段階にある。少子化や核家族化が進む中であって、高校生が学校外の様々な活動に参加することは、とすれば

学校生活にとどまりがちな生徒の生活の場を地域社会に広げ、幅広い視野に立って自らのキャリア形成を考える機会となることも期待される。このような教育課程外の様々な教育活動を教育課程と関連付けることは、生徒が多様な学びや経験をする場や自らの興味・関心を深く追究する機会の充実につながることになる。

工業高等学校では、キャリア教育及び職業教育を推進するために、生徒の特性や進路、学校や地域の実態等を考慮し、地域や産業界等との連携を図り、産業現場等における長期間の実習等の就業体験活動の機会を積極的に設けるとともに、地域や産業界等の人々の協力を積極的に得ることが求められる⁽²⁾。生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、キャリア教育の充実を図るとともに、生徒が自己の在り方生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、組織的かつ計画的な進路指導を行うことが必要である⁽⁸⁾。

今後、工業高等学校においては、それぞれの学校における教育活動で育成すべき資質・能力を今一度確認するとともに、地域との連携・協働をさらに進めながら、キャリア教育の視点から進路指導をとらえ直すことはもちろん、工業に関する科目や普通科目、特別活動等の全ての教育内容を改善・充実させつつ、互いの連携を深めて教育活動を推進することが必要である。

参考文献

- (1) 中央教育審議会：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申），pp. 34-35, pp. 55-57, 2016：2024年1月15日，
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm.
- (2) 文部科学省：高等学校学習指導要領（2018年告示）解説工業編，東洋館出版社，pp. 6-43, p. 387, 2018.
- (3) 文部科学省：高等学校学キャリア教育の手引，p. 15, pp. 39-40, 2011：2024年1月15日，
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1312816.htm.
- (4) 文部科学省：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申），pp. 17-18, 2011：2024年1月15日，
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf.
- (5) 文部科学省：共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告），2012：2024年1月15日，
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321668.htm.
- (6) 文部科学省：「キャリア・パスポート」例示資料等について，2019：2024年1月15日，
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/08/21/1419890_001.pdf.
- (7) 文部科学省：教育振興基本計画，pp. 12-18, 2023：2024年1月15日，
https://www.mext.go.jp/content/20230615-mxt_oseisk02-100000597_01.pdf.
- (8) 文部科学省：高等学校学習指導要領（2018年告示）解説総則編，東洋館出版社，pp. 148-150，2018.